

我國は幼稚園教育がまだ甚だ幼稚であるが所謂搖籃教育についても考へてゐる人は少ない。本當に眞面目な研究は勿論相當な學者に待たなければならぬ。其の間に併し世の母さま達は自分の子供について極めて小さい時からどんなに導いたら宜しかろうか其感官や身体並びに精神をどう開發せしめたらよからうといふやうな事は呑気に學者のいふ事を待つてゐず自分の責任と思つて自ら工夫せなければならぬ事とせう

○あしがれ

高橋 立吉

(一) せみの小川に、水満ちて、

そよ吹く風に、揺られつゝ、

苔緑なる、つゝみには、

名も無き草も、花咲きぬ、

日は麗らかに、塵起たず、
平和に満てる、鄙の春、

(二) 尙うら若き、麥の穂の、
穂波そるへる、畦徑に、

幼兒一人、目を舉げて、
上る告天子の、影追へば、

影は御空に、消えながら、
譜は落ちぬ、地の上に、

(三)

「鳥とならばや」、我も亦、
羈絆のがれて、大空に、

飛びて翺りて、謡はなむ、
衣袖を翼に、飛び見れば、

夢やぶられて、蝶一つ、
草花より出で、飛び去りぬ。